

「世界史A」学習指導案

日 時 平成28年7月15日(金) 第5校時(12:55~13:45)
場 所 2階・1年B組教室
対 象 1年B組(35名)
授業者 岸 百合子

1 単元名 (2)世界の一体化と日本

ア ユーラシアの諸文明 「ヨーロッパ世界」(ギリシア人の世界)

2 本時の目標

- (1) ペルシア戦争を背景とした、アテネ民主制の完成に至る流れを考察している。
(2) アテネ民主制について、現代民主政治と比較させながら多角的に考察し、適切に表現している。

3 本時の展開

指導過程	指導内容	生徒の学習活動	評価の観点	指導上の留意点
導入 8分	前時までの学習内容の確認 本時の目標と学習課題の確認	○ボリス発生当時の時代背景を確認する ○アテネ民主制完成の過程と背後にある社会情勢を確認する。 ○ペルシア戦争の過程を説明する。		
<p>【問い】 アテネ民主制の「特徴」が生まれた要因はどこにあるのだろうか。</p>				
展開 35分	グループワークの指示	<p>《探究Ⅰ》 アテネ民主制が生まれた要因について、グループで探究する。</p> <p>①グループに探究課題「アテネ民主制の特徴」を割り振り、その特徴が生まれた要因について、グループ内で話し合い意見をまとめる。【10分】 ※獲得した知識を元に探究する。</p> <p>②話し合いの内容を発表する。 【8分】</p> <p>《探究Ⅱ》 アテネ民主制の動向についてグループで探究する。</p> <p>①民主的に運営されたアテネがこの後どのように行動したか、グループで予想し、意見をまとめる。【7分】</p> <p>②話し合いの内容を発表する。 【5分】</p> <p>○正解の発表【5分】 ペロポネソス戦争について解説する。</p>		<p>○1グループ：5名で編成する。</p> <p>○グループの意見をワークシートに記入する。</p> <p>○考えの道筋や注目した観点を自覚させる。</p> <p>○ワークシートに他グループの発表を記入し課題を完成させる。</p> <p>○グループの意見をワークシートに記入する。</p>
整理 7分	本時のまとめ	<p>○本時の内容を簡潔にまとめ、ペアワークで話し合う。</p> <p>○相手の意見の要点を書き留める。</p>	思考・判断・表現	<p>○自分の意見を、ワークシートに記入する。</p> <p>○ペアワークでは自分と相手の意見を比較する。</p>

4 評価の方法

歴史的な事象について協力しながら意欲的に追究し、思考の内容を筋道を立てて適切に表現している。
(ワークシートによる評価)

「世界史A」単元の指導と評価計画

(北海道伊達緑丘高等学校 岸 百合子)

【単元の目標と評価の観点】

単元名	ユーラシアの諸文明「ヨーロッパ世界」(全9時間)			
単元の目標	古典古代の人々の動向、東ローマ帝国を中心とする東ヨーロッパ世界の特質を理解し、これら諸文明の影響の下に成立した西ヨーロッパ封建社会の形成と展開の過程を把握する。 <単元を中心となる問い> 繰り返される異民族の進入に対し、ヨーロッパ地域はどう対応してきたのだろうか。また、その接触はヨーロッパ世界にどのような変化をもたらしたのだろうか。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	ヨーロッパ世界の形成や当時の人々の動向に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	ヨーロッパ世界の形成、展開から現代につながる文明の特色を多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	諸地域の接触、交流に関する資料から有用な情報を選択し、空間的つながりを図表にまとめるなど適切に整理している。	ヨーロッパ世界の形成、展開に関する基本的な事項を把握し、その知識を身に付けている。

【単元の指導と評価計画】

時程	学習内容	評価の観点				評価方法等
		関	思	技	知	
第1時	【ねらい】多様なポリスの中でアテネに注目し、その国制について関心を高める。	【問い】ギリシア人はなぜ、「我々意識」を失わなかったのだろうか。				現代に残る文物などからアテネを中心とする古代ギリシア世界の特色について考察し、学習意欲を高めている。(ノート)
第2時 本時	【ねらい】ペルシア戦争を背景にアテネ民主制の成立過程とその後の変化について追究させる。	【問い】アテネ民主制の「特徴」が生まれた要因はどこにあるのだろうか。				アテネ民主制の成立過程やその背景について、グループで協力しながら意欲的に追究し、適切に表現している。(ワークシート)
第3時	【ねらい】ローマ共和政が成立する過程について、アテネ民主制と比較しながら考察し、関心を高めさせる。	【問い】ローマの拡大はどのような人々によって支えられていたのだろうか。				ローマ共和政の成立・発展過程について考察し、学習意欲を高めている。(ノート)
第4時	【ねらい】ローマ帝国の諸地域世界との活発な交流を把握し、当時の人々の動きをまとめる。	【問い】ローマはなぜ、世界帝国となったのだろうか。				ローマと諸地域世界との交流に関する資料を収集し、まとめている。(ワークシート)
第5時	【ねらい】フランク王国が西ヨーロッパ世界の形成に大きな役割を果たした要因について考察させる。	【問い】カール大帝は、なぜローマ皇帝の冠を得たのだろうか。				フランク王国の意義や過程について意欲的に追究し、思考の内容を筋道立てて適切に表現している。(ワークシート)
第6時	【ねらい】ヨーロッパの封建社会について、わが国における封建制と比較しながら、その特色について理解させる。	【問い】西ヨーロッパ封建制は、日本の封建制とどのように違うのだろうか。				ヨーロッパ封建社会の特色に関する基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。(ノート)
第7時	【ねらい】十字軍をきっかけとした西ヨーロッパ世界の変容について理解させる。	【問い】十字軍は、西ヨーロッパ社会にどのような変容をもたらしたのか。				十字軍遠征の過程と社会変化に関する基本的な事項を理解し、その知識を身に付けている。(ノート)
第8時	【ねらい】国王による中央集権化の過程と結果について追究させる。	【問い】国王と諸侯との力関係は、どのように定まっていったのだろうか。				国王による中央集権化について意欲的に追究し、その過程や結果を適切に表現している。(ワークシート)
第9時	【ねらい】東ローマ帝国の繁栄に関する資料を読み解き、その特色について考察させる。	【問い】東ローマ帝国が西ローマ滅亡後も長く繁栄したのはなぜだろうか。				東ヨーロッパ世界の特色について資料から読み取り、年表や地図などを活用してまとめている。(ノート)

※関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現 技：資料活用の技能 知：知識・理解

《研究授業①「世界史A」》

「世界史A」の授業は、「アテネ民主政が成立した背景とその特色」「その後のアテネがどのように移り変わっていったか」について、グループで話し合いながら追究していくものでした。生徒たちは学んだ知識をもとに悩み抜き、班員と協力しながら考えをまとめていきました。

